

書 評

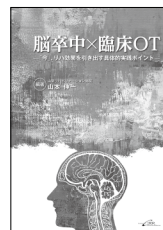
山本伸一（編著）

脳卒中×臨床 OT

—「今」，リハ効果を引き出す具体的実践ポイント—

中 村 春 基

（日本作業療法士協会，会長）



山本伸一氏は，脳血管障害に対する作業療法を，知識・技術面からリードする一人である。「活動分析研究会」で培われた知識と技術のエッセンスが本書に凝縮されている。サブタイトルに「リハ効果を引き出す」とあるが，「作業療法」について書かれている。

本書を頼りに，「今」あなたがやっている「作業療法」を見直し，少しでも利用者の機能と活動，参加が改善すれば，本書の目的は達成されたと思う。

さて，どの書籍でもそうであるが，まず「発刊に寄せて」と，「はじめに」の項をお読みいただきたい。本書では，「発刊に寄せて」で山梨リハビリテーション病院院長の中澤良太氏が「目の前の患者に対し，真摯に向き合った結果がそこにある」と題し，同医師の山城亘央氏が「セラピストの皆様へ実体験を通して，感覚-知覚のあり方やリハビリ訓練プロセスを問う」と題して記し，そして，山本氏が「はじめに」で発刊に携わっ

たすべての方々の思いを述べている。以下に本書の特徴，魅力を記すが，読み終わった後には，実際に山本氏の指導を受けてみたいと思われるに違いない。

全体はSTEP 1～7から構成され，STEP 1 臨床推論のための概論①では，「脳卒中片麻痺」を片側の麻痺ではない全身の障害として捉え，知覚-運動，運動-動作，姿勢，歩行，体幹，の捉え方について述べている。STEP 2では，概論②として，個別性，感覚-知覚アプローチの介入原則について整理されている。STEP 3～5は実践の紹介で，感覚-知覚に基づいた正常運動分析，脳卒中対象者の動作の特徴，介入のポイント，実践，考察の順で，運動療法アプローチ1（背臥位・寝返り，起き上がり・座位，リーチ，立位バランス，移乗），運動療法アプローチ2（体幹の促通，パーツの促通として，肩甲骨，骨盤，足関節，手），活動介入アプローチ（更衣，トイレ，食事，整容，入浴）等についてまと

められている。STEP 6では，Activity アプローチ（Activity を活かすとは？，輸入れ・輪投げ，コーン，お手玉，新聞紙を使用した Activity，おはじき，書字）について，Step 7では応用事例として，半側空間無視，前頭葉症状，失語症，認知症，ポジショニング（背臥位，車いす），肩の痛み（インピンジメント，ストレッチペイン）でまとめられる。また Column として，新人，非常勤の悩み，子育て等，実体験が語られている。

本書籍が「臨床力」の向上に寄与することは間違いない。49名の執筆者，イラスト担当4名，まさに山梨リハビリテーション病院作業療法科の総力を挙げての取り組みに感謝をしたい。このような書籍が次々と出版されることを願っている。

〔 B5 判 312 頁 4,200 円＋税
シービーアール 刊
☎ 03-5840-7561 〕